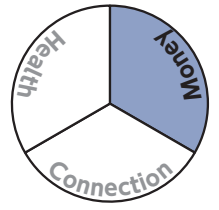


欧州 ～なぜ欧州で爆発的な コロナ感染が起きたのか?～



経済調査部 主席エコノミスト 田中 理(たなか おさむ)

人の往来の多さが感染拡大に

新型コロナウイルスが欧州各国を襲っている。発生源の中国から遠く離れた欧州で、なぜこれほどまでに感染が拡大したのだろうか。その具体的な経路や原因は、免疫学者などによる科学的な検証結果を待たなければならない。ただ、欧州をフォローするエコノミストの立場からは、感染が拡大しやすい幾つかの要素があったように思える。

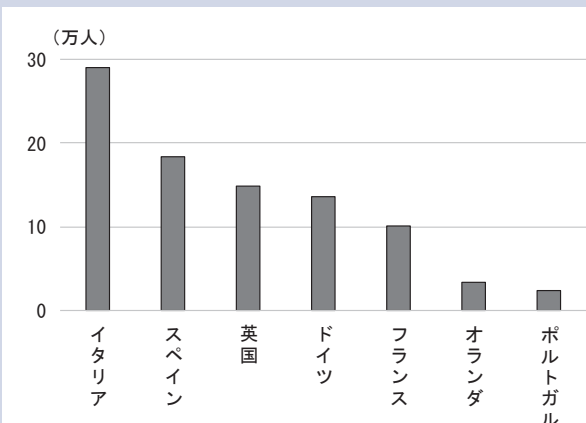
欧州で感染者が特に多い国は、イタリア、スペイン、フランス、ドイツ、英国の5カ国だ。これらは中国系住民が多い上位5カ国でもある。例えば、爆発的な感染者を出したイタリアには、30万人近くの中国籍の住民がいる。華僑がイタリアに渡った歴史は古く、同国内には中国系移民二世や三世もいる。北部イタリアに居住するケースが多く、代表都市ミラノには大規模な中華街もある。春節休みに中国と欧州に多くの人の往来があったことは想像に難くない。しかも、春節は欧州各国の学校休暇(スクールホリデー)の時期とも重なる。北部イタリアや国境をまたいだスイスやオーストリアには、多くのスキーリゾートがある。雄大なアルプスでスキーを楽しんだ欧州市民は、自国にウイルスを持ち帰り、各国で爆発的な感染を引き起こした。国境を越えた人の行き来が自由なことが、感染拡大を広げる理由のひとつとなった。

家族主義がもたらす悲劇

欧州人の生活様式も感染拡大につながった可能性がある。ビジネス上の挨拶は握手程度のことが多いが、親しい友人が街中で会えば、肩を抱き、両頬に軽くキスをするのが当たり前だ。イタリア人やスペイン人は、老若男女を問わずおしゃべり好きが多い。公園でも道端でも電車の中でも、目の前に相手がいようがいまいが(携帯電話越しに)、飛沫をまき散らしている。日本のように、こまめな手洗いやマスクをする習慣もない。

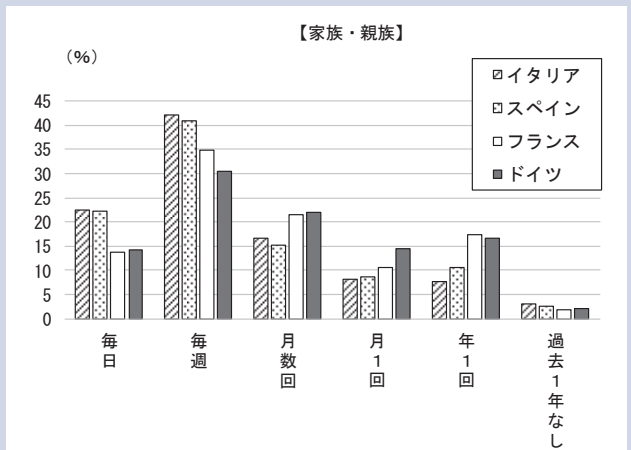
感染者がひと際多いイタリアとスペインは、何れも家族主義の国として知られる。スカンジナビア諸国やオランダなどの北部欧州では、成人後に親と同居する割合が低いのに対し、イタリア、スペイン、ギリシャなどの南部欧州では成人後も親や祖父母と同居する割合が高い。一族郎党で集まるのが大好きなことは、南部イタリアの家族主義を題材としたイタリア映画を観るとよく分かる。イタリアやスペインでは、家族や友人と集まる頻度が、ドイツやフランスなどと比べて高いとの調査結果もある。イタリア、スペインともに、夕食前に友人と軽く一杯しながら談笑する文化がある。家族の結びつきの強さや、友人との時間を大切にすることが、感染を拡大させてしまったのだとすれば、何とも悲しいことだ。

資料1 主な欧州諸国内の中国籍の居住者数



(注)フランスは2015年、残りは2018年
(出所)経済協力開発機構資料より第一生命経済研究所作成

資料2 家族・親族や友人と集まる頻度(2015年)



(出所)欧州委員会資料より第一生命経済研究所作成